

**魚津市**

**総合計画・総合戦略策定に向けた**

**団体意向調査**

**【結果まとめ】**

**令和7年3月**  
**富山県 魚津市**

## ■目的

第5次魚津市総合計画「後期基本計画」の策定に当たり、これまでの取組を評価、検証し、新たな施策を検討していくため、市内の関係団体に対して意向を把握する調査を実施しました。

## ■調査方法

- ① 調査対象 魚津市内を活動拠点とする関係団体
- ② 調査方法 郵送による調査票の配布・回収及び Web 回答
- ③ 調査時期 令和7年1月15日（水）～2月28日（金）

## ■回収結果

- ① 配布数 43 団体
- ② 回収数 34 団体（Web 回答：15 団体）
- ③ 回収率 79.1%

## ■質問項目

- 1 団体の基礎情報（名称、連絡先、人員規模、主な活動内容）
- 2 人口減少に関係する、貴団体の課題、魚津市の課題
- 3 魚津市が新たな将来人口の目標を検討するにあたり、目指すべき方向性
- 4 魚津市が取り組むべきこと、また団体が市とともに取り組みたいこと
- 5 今後、市が特に力を入れて取り組むべきこと

## ■回答・意見のまとめ（主なものを抜粋）

【問1】魚津市の人口は今後も減少することが予測されています。  
こうした人口減少に関係する、貴団体の課題、魚津市の課題について、  
それぞれご記入ください。

### 団体の課題

#### ① 人材不足・担い手不足に関する意見

- 耕作放棄地の増加や就業者不足、経営体が減少などの影響がある。
- 若年層へのアプローチが必要。
- 人材確保が急務。人材育成が困難。
- 生産性の向上が限界である。
- 新規の従業員が入ってこない現状、担い手の確保。
- 魚津市の観光事業に携わる人が不足する（ボランティアガイド等）。
- 各地区内でも活動に対しての温度差が大きい。

#### ② 少子・高齢化に関する意見

- 地域活動が困難になっている。
- 高齢化による会員数の減少。役員選出の困難。
- 高齢化に伴って地域医療での負担が増加している。
- 入学者、入園者が減っており、施設運営が心配。
- 人口・世帯数減少に伴う収益の減少。
- 市内在住もしくは出身者の採用が困難となっている。

### 魚津市の課題

#### ① 若年層・子育て世代に関する意見

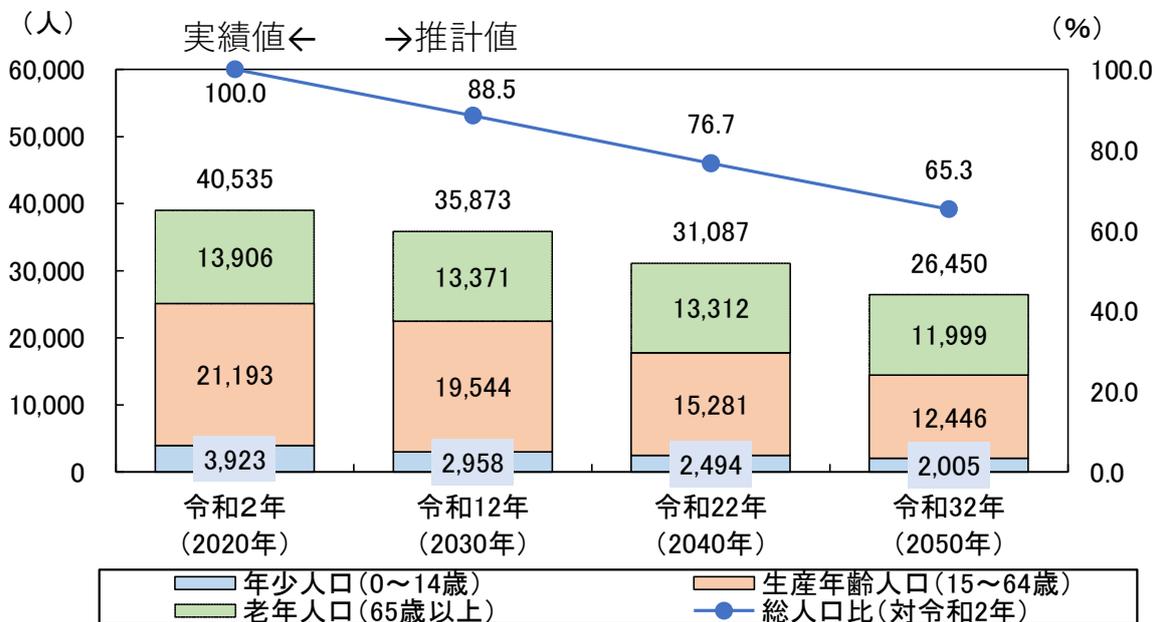
- 若い世代の市外・県外への流出。
- 次世代の地域の担い手が不足すると共に地域経済が縮小する。
- 若い世代へのアピールとして、地元での出産、子育てが出来る環境が必要。
- 中学生からの職業、キャリアに関する啓発。
- 少子高齢化に関する情報提供をしてほしい。

## ② 行政サービス、まちづくりに関する意見

- 人員不足、行政サービスの低下。
- 住民税、固定資産税等の税込減による財政収支の悪化。
- インフラ整備の遅れ。
- 安心、安全なまちづくりが急速な高齢化に対応出来ていない。
- お客様が魚津市に観光に訪れたときに対応出来ない。
- 医療・介護従事者の減少を招き、高齢化社会に欠かせないエッセンシャルサービスの維持が困難になる。

## ③ 観光・市の魅力向上に関する意見

- 魅力が不足している。
- 人が集まりやすい環境づくり、人と人がつながりやすく、魅力的な町。
- 観光、歴史、文化の動線を整理する必要がある。
- 観光案内所の運営や観光ガイドの育成を支援すること。
- 空家問題の深刻化。防災や景観の観点から課題となる。



【参考】国立社会保障・人口問題研究所の2024年版推計準拠人口

※実績値は年齢不詳があるため、推計値は年齢不詳補完結果によるため、区分計と合計は合わない場合があります。

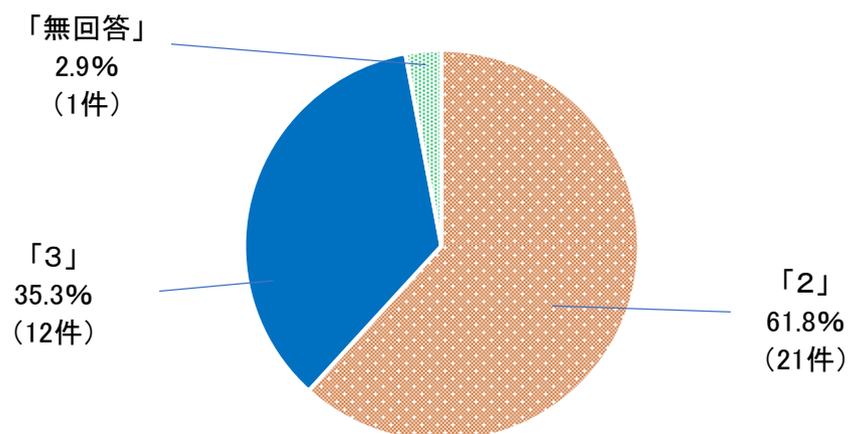
【問2】第5次総合計画では、人口減少対策を重点施策に位置づけ、様々な施策に取り組んでいるところですが、現在、想定を上回るスピードで人口減少が加速しています。

今後、魚津市が新たな将来人口の目標を検討するにあたり、目指すべき方向性として、どうあるべきと考えますか。

※以下の項目1つに○をつけ、その理由も記入

1. 人口減少には逆らわず、移住・定住促進などの積極的な取組は行わない
2. 人口の減少幅を少なくし、可能な限り人口を維持する取組を行う
3. 人口増加を目指し、人口増に対する取組を更に強化する

### 回答選択の割合



- 1. 人口減少には逆らわず、移住・定住促進などの積極的な取組は行わない
- 2. 人口の減少幅を少なくし、可能な限り人口を維持する取組を行う
- 3. 人口増加を目指し、人口増に対する取組を更に強化する
- 不明・無回答

## 回答選択の理由

### 2. 人口の減少幅を少なくし、可能な限り人口を維持する取組を行う

- 減少を止めないと市が成り立たなくなる。現状では人口増は厳しい。
- 企業経営の持続のため、人口を維持する必要があるから。
- 生産年齢人口の減少幅を少なくすることができれば全体人口は減少しても高齢化率を下げるができる。
- 今後、魚津市として観光に力をいれたときに対応するスタッフが不足すると、観光客の満足度が低くなる。結果、交流人口も減少すると、サービス業、小売り店舗の事業所が減り、魚津市の活気がなくなる。
- 人口減少問題は避けられないが、減少スピードを落として、その期間に、課題を整理する（案：住宅地を限定範囲に定めていくなど）
- その地に備わっている風土が重要と感じる。外部からの流入人口の増加を目指すより、その地で育った人間が人生のいずれのフェーズにおいても過ごしやすい、希望を抱けるような土地にしていく事が大事ではないか。

### 3. 人口増加を目指し、人口増に対する取組を更に強化する

- 若い世代が他県・他市に移住しないような対策の強化。
- Uターンの促進と強化を図る。
- 社会動態による人口増加を目指すより他、対策がないと思われる。
- 県外からの移住は難しいかもしれないが、若い世代は魚津市に住み続けたいと思えるまちづくりを目指す。
- このままだと高齢社会が加速していくため
- 増加させる取組を行わないと維持にならないと思われるため。
- どの施策でどの程度、人口減少につながっているか再検討し、市として特に必要な施策に力を入れることで、下降線が緩やかになればと思う。

【問3】魚津市が目指すべきまちの姿の実現に向けて、魚津市が取り組むべきこと、また貴団体が魚津市とともに取り組みたいことについて、それぞれご記入ください。

## 魚津市が取り組むべきこと

### ① 市の活性化に関する意見

- 市の人口を増加させ、もう少し活気あふれる市にならないといけない。
- 魚津駅前等のシャッター街を中高生の学習室にしたり、人が集まりやすい場所をつくってほしい。
- 企業の誘致や魚津の魅力のPR。
- 新規創業、企業誘致に取り組み、地域経済の活性化を図る。

### ② 移住・定住に関する意見

- 若者世代の流出の歯止め。
- 子育て支援少子化対策の一層の充実、労働環境の改善など。
- 安全で安心して暮らせる住宅環境の設備、住みたい家づくり促進事業。
- 既存住宅の耐震化に対する支援。補助金制度の拡大。
- Iターン・Uターンなどの移住・定住策の推進。
- 市内の耕作放棄田等を活用しながら企業誘致を積極的に進め、移住者等に対して安心できる雇用の確保に努めていただきたい。
- 住居支援、テレワーク推進、地域おこし協力隊の活用

### ③ まちづくりに関する意見

- 市民・住民の「安心・安全な暮らしを守る」に取り組むことにより、ある程度の目標は達成する。
- 豊かな自然（山海河）の維持保存。
- 魅力ある選ばれるまちづくり。
- ICTを活用した市民サービスの利便性の強化、スマート農業、交通サービスの向上など

### ④ 子育て支援・教育に関する意見

- 子育てや教育が安い費用になる仕組みをつくる。
- 子育て世代の移住者・定住者のための住居費、土地購入、住宅取得等に対し

ての助成金を、可能な限り手厚くしていくべきである。

- 今、高校生が地域とのつながりを大切にいろいろ企画しているので、それを育てて魚津の将来につなげてほしい。
- 人口減少の減り幅を抑えつつ、未来を担う子どもたち、子育て世代の住み良い街づくりに取り組むのが良いと考える。

## **（団体が）魚津市とともに取り組みたいこと**

### **① 観光や定住に関する意見**

- 魚津の自然や歴史の紹介を通して郷土の良さをアピールしていくこと。
- 交流人口（特に来訪者）を増やすための方策を検討していきたい。
- 移住してきた人や移住を検討されている人を対象に町歩きツアーなどを行い、魚津の良さを知ってもらう。
- 各地域の魅力、活動等を SNS 等で強力に発信し、移住、関係人口の創出に努める。
- 若者が地域活動に積極的に参加してもらえるような活動を展開していく。
- 魚津市の賑やかさ創出のためにデジタルを活用したプラットフォームを構築・提供する。
- デジタルデバイドの解消（特に高齢者）を推進し、地域 DX 推進の一助とする。
- 多様性をテーマにした基調講演やイベントを行い少しでも住みやすい社会にしたい。

### **② 産業振興に関する意見**

- 新規創業等に対して伴走型支援を行う。
- 農業用水は必要不可欠で多様な役割があるが、転落死亡事故が発生しており、今後も事故を未然に防げるよう協力して対策を行いたい。
- 農業担い手づくり。

### **③ 雇用に関する意見**

- 魚津市・富山労働局雇用対策協定を締結しており、実施計画により協力、一体的に取り組む。
- 学校機関が安定的に入校者を確保し、県内に卒業生を定着させることで若年者の県外流出を抑止し、活力あるまちづくりに資することになると思われる。

#### ④ 健康・福祉・医療に関する意見

- 高齢者が安心して暮らせる（気軽に相談できる）、障がい者や子育て世代に対する手助け、広く市民に民生委員の活動を知ってもらう。
- 健康寿命の延伸を目指し、生活習慣病やフレイル予防など、生涯にわたる健康づくりの推進と、健康意識を高める啓発活動に努める。
- 保育士が不足しているので潜在保育士の掘り起こしが必須。全国の事例を参考に公民連携で子育て支援の充実へ。
- 子育て家庭が集えて楽しめる『子どもまつり』『作品展』等の各種イベントを年間を通して実施したい。
- 若者や若い女性（骨粗鬆症や痩せすぎ）の健康な食生活の改善に取り組みたい。

#### ⑤ 防災に関する意見

- 行政と魚津防災士連絡協議会・魚津市自主防災組織連絡との情報の共有化及び連携強化。
- 既存建築物の耐震対策。
- 水道事業に関し、災害時にスムーズに災害復旧が図れるよう実践的な防災対策を構築したい。

【問4】貴団体の今後の活動の展望や魚津市の現状を踏まえ、今後、市が特に力を入れて取り組むべきこと等、自由にご記入ください

#### ① 健康・福祉に関する意見

- 生きがいを高める活動事業（高齢者芸能大会、趣味の手作り展）。
- 健康促進活動事業（シルバースポーツ大会、高齢者スポーツ大会）。
- 高齢者趣味教室事業。
- 健康で生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせる街づくり。
- 魚津市に出産できる産科をつくっていただきたい。
- 大きな公園には、子育て家庭が集まりやすいトイレや売店等の環境整備を。イベント行事には子育てルームとスタッフを。
- 今後、部活動の地域移行などもあり一時的に団員数は増えると思われます。（今のスポーツ少年団が部活動の受け皿となる可能性があるため）  
しかし、児童数の減少は目に見えて進んでいるので、子どもたちが少なくなっても団としての活動を途切れさせる事なく、人生の選択肢として残し続

けられることを（活動できる環境を整える）模索していきたいと思います。

## ② 定住に関する意見

- 金沢や上越の大学への通学補助。
- 県外からの就職者支援
- 他市から魚津市に転入してもらえるように、宅地分譲地開発補助金、転入者補助金等の充実・拡充。
- 市営アパートを増やす、または改築する。
- 若者(特に女性)が魅力を感じられるまちづくり。
- 市内の企業様とコラボしてのイベントを開催して社内から男女共同参画について理解を高めてもらいたい。
- 義務教育期間中にオーガニック食材の給食を取り入れて、食を大切にする移住者への関心要因とする。
- 他にはない魚津の良いところを発信して、市外・県外・海外に向けて
- PRしていく。
- 目玉スポーツの取り組み（魚津市でないとできないスポーツなど）。

## ③ 観光に関する意見

- 市の歴史や文化、自然に関する団体が、お互いが補い合いながら、大きな活動になるようなイベントができないものか。
- 魚津駅観光案内所の運営や観光ガイドをボランティアで行う時代は終わった。若い人がやってみたいと思うような魅力的な仕事にすること。
- 近年オープン予定の新川文化ホールの全天候型遊戯施設に期待。

## ④ 産業に関する意見

- 企業誘致をする。
- 観光面の施策を積極的に進めてほしい。
- 小中学生に対するものづくり教育の導入に貢献し、長期的な視野でのものづくり人材の養成を共に進めてまいりたい。

## ⑤ その他

- 全国から若者が集まるような学校を呼び込むことが必要。
- 地区の活動では限界があるので、市で地域の防災予算をつける。
- 公共交通機関の整備。
- 市民がともに協力しあおうとする気風を育てる（人口減少、高齢化対策等）。